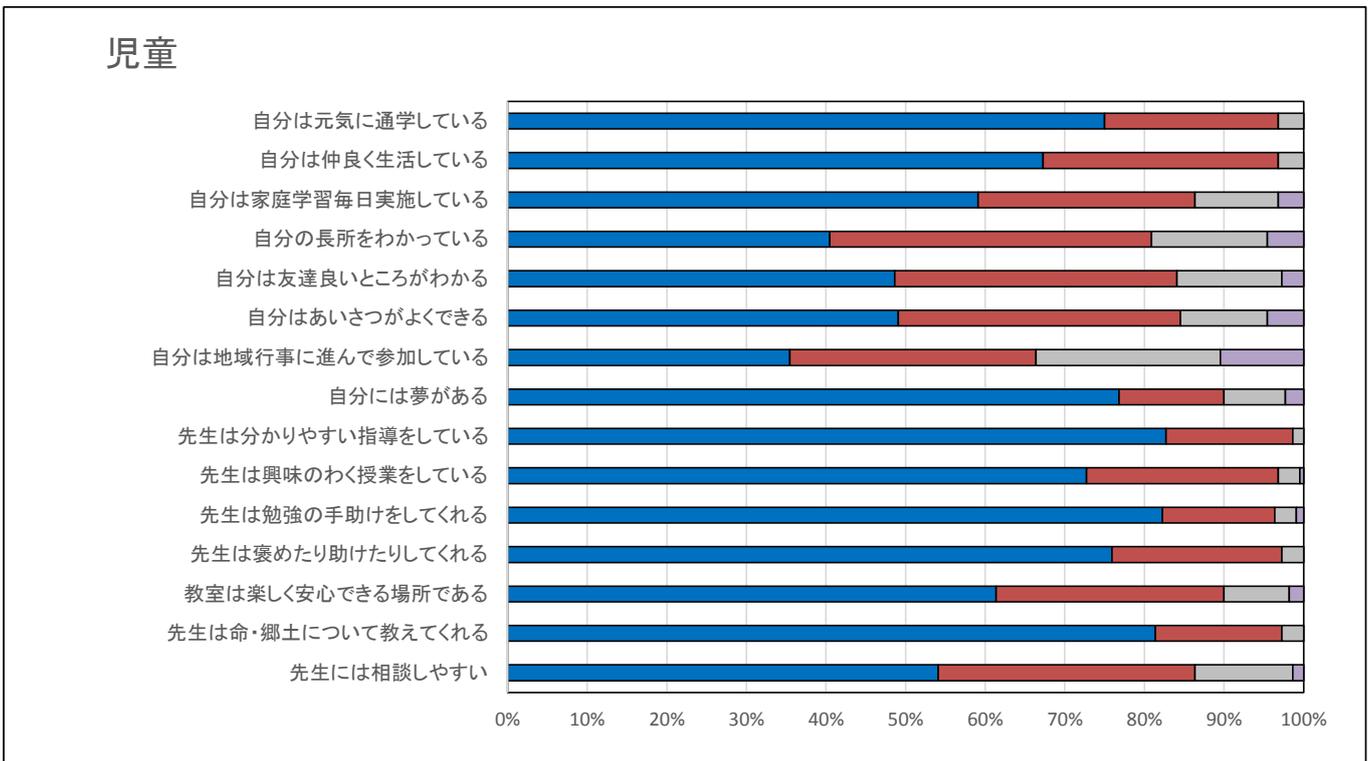
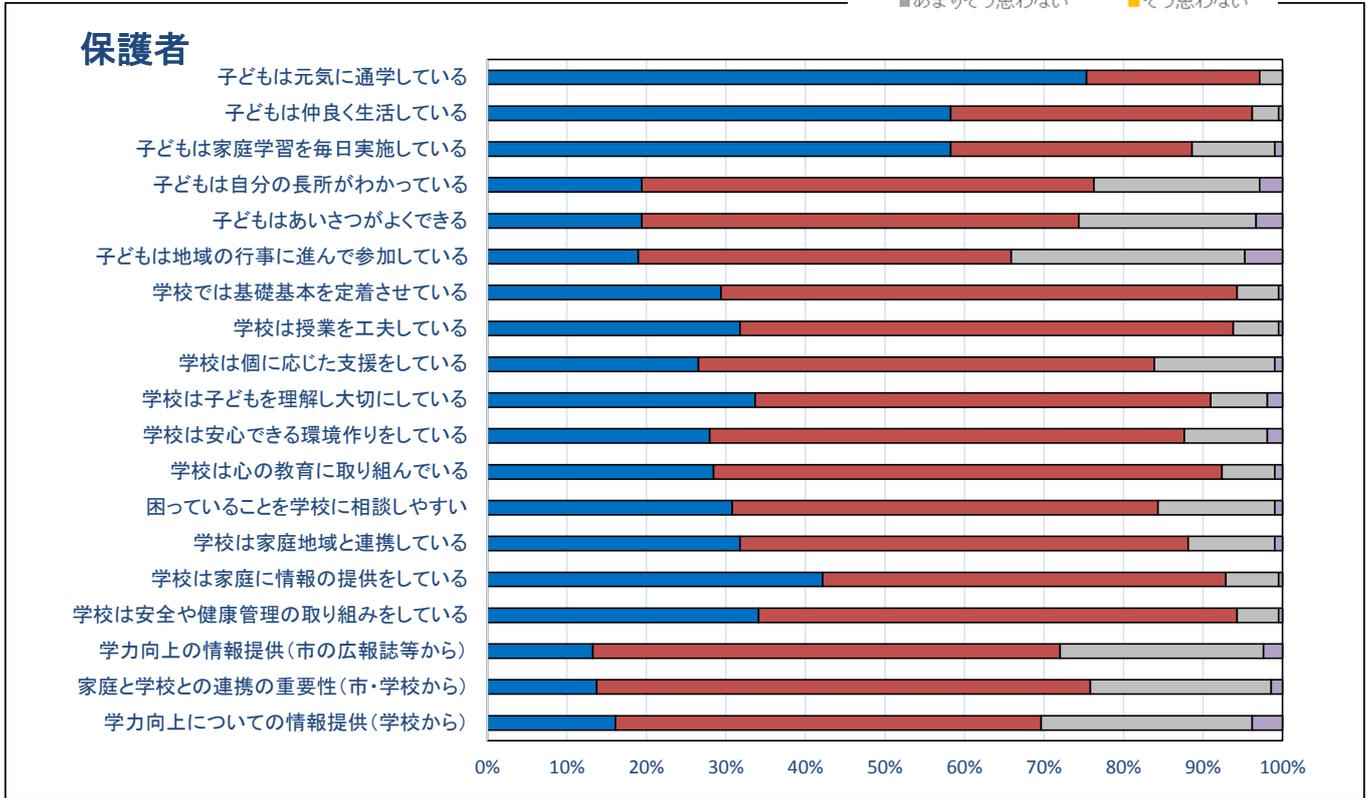


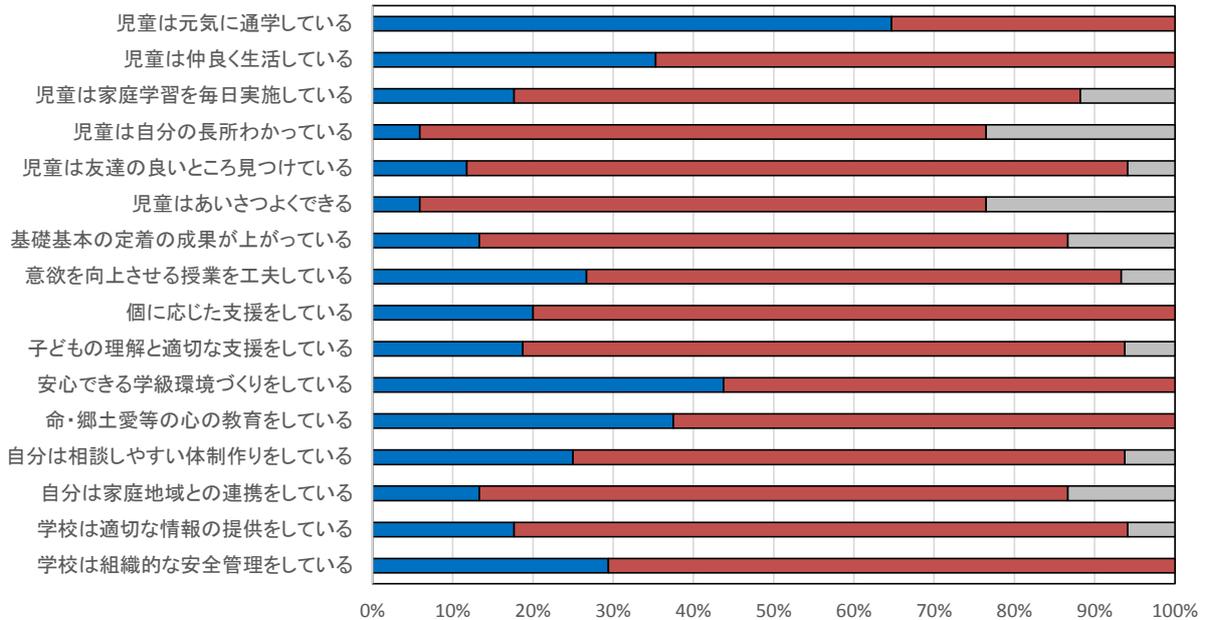
3.学校評価(令和元年度 第1回目)

ここでは、7月に実施した令和元年度の第1回目の保護者・児童からの学校評価と教員の自己評価についてお知らせしています。集計の結果から、『そう思う』+『まあそう思う』を【良い点】、『あまりそう思わない』+『そう思わない』を【改善点】と捉え、分けて記述しました。お忙しい中、評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

■そう思う ■まあそう思う
■あまりそう思わない ■そう思わない



教職員



回答に対し、「そう思う」「まあそう思う」を肯定的な意見、「あまりそう思わない」「そう思わない」を改善を要する意見としてとらえました。

【良い点】

・児童、保護者、教員とも、「自分は元気に通学している」「自分は仲良く生活している」という回答は、肯定感が高い割合を示しています。

・授業に関する3項目、「基礎・基本の定着」、「授業の工夫」、「個に応じた支援」は保護者・児童ともに肯定的な回答でした。教職員が最重視している点で、一人でも多くの子どもが「わかる喜び」を味わえるように、今後も授業の改善に取り組んでいきます。

・「安心安全学級環境」について、保護者から高い評価が得られました。学校の安全管理や安全教育、いじめ等への対応など児童が安心して学校生活を送れるように、今後も努めていきます。

【改善点】

・「地域行事に進んで参加している」は、児童・保護者とも肯定感が最も低い項目でした。少年団活動や家庭事情等様々な要因があり、地域行事優先とはいきませんが、家庭や公民館等と連携して、児童への情報提供と共に職員も参加しながら、参加率アップを目指していきます。

・「あいさつ」については、児童と保護者・教員の評価に最も大きな差が見られました。児童は、校舎内では大きな声であいさつができています。しかし、登下校時などの校外（一般社会）でできる児童は少なくなります。校内は、あくまで練習の場で、校外（一般社会）で自分からあいさつできることが最終目標であることを伝えていきます。保護者・地域の皆様、今後も児童への声かけよろしくお願いたします。